

この会報は、共同募金の配分を受けて発行されています。

令和5年3月末日 発行

やまびこ No.268

発行 公益社団法人 埼玉県手をつなぐ育成会
 〒330-0062 埼玉県浦和区仲町2丁目14-6 ハウス第五仲町101
 TEL 048-833-0444 FAX 048-833-0400
 E-mail:saitama@teotunagu.jp
 ホームページ http://www.teotunagu.jp/

定価50円 (購読料は会費に含む)

理事長 高野 淑恵

令和4年度も何とか無事に終了いたしました。平素よりご支援ご協力いただきありがとうございます。心より御礼申し上げます。令和5年度は少しでも希望の持てる年になりますようにと祈るばかりです。

新型コロナウイルスは、本年5月8日から感染法上の位置づけについて、季節性インフルエンザ等と同じ「5類」に移行することを政府が決めました。未だにコロナウイルスによって亡くなる人がいるというのに大丈夫なのか、きちんと検証したうえで決めたのかなと少し不安です。

この3年、ワクチン接種や治療費などをすべて国の負担で賄ってきましたが、もうこれ以上国は負担したくないようです。それよりも戦車を買いたいという噂ですね。軍備には莫大な費用が掛かります。日本の未来のためには教育と福祉にもっと予算を注ぎ込んでほしいところです。

コロナが世界中を黒く塗りつぶしているあいだ、「おうち生活」を強いられた子どもたちはどんな生活を

かを考える時間としました。また、女性グループのプログラムでは、講師から具体的な性への知識を本人に分かりやすく丁寧に説明していただき、自分自身を大事に考えることの重要さを基に将来に向けて自分らしく生きるためにどう有るべきかを考える時間としました。この本人たちの性への学びは、今後も継続的に実施することが大切と考えます。

「泣いた赤鬼」「むくどりのゆめ」 (浜田広介)
 「よだかの星」 (宮沢賢治)
 「ごんぎつね」 (新美南吉)
 「泣いた赤鬼」「むくどりのゆめ」 (浜田広介)

近年のものとすと「百万回生きたねこ」(佐野洋子)などでしょうか。とても切なく美しく美しい話です。子どもころ読んでいたときは、どうしてこんなに悲しい結末ばかりなのだろうと思ったものでした。でも、歳を重ねるたびに思うのは、主人公たちがどんなに優しい心を持っていても、生きている者には必ず死が訪れること。そしてたとえ自分の命と引き換えても愛する気持ち、相手へ

の優しい気持ちは何よりも尊いものであると語っているように思うのです。人生は決してハッピーエンドばかりではないことを幼い心に語り掛けています。哀しい結末で涙がいっぱい流れても、その哀しさと涙は情緒を豊かにし感性を育て、自分の命、人の命の大切さを知っていく、育んでいくのだと思います。

昨今、世の中は殺伐とした事件が多いです。高齢者の家に強盗に入り、過剰に暴力を振るって相手を死に至らしめます。90歳の老婦人を20代の若者が殴り殺して金品を奪った事件でも、その若者はそのことを嬉々として周りに言いふらし、逮捕時にも笑っていました。単に金品を奪うのに、このような残忍な暴力は必要なかったはず。やったことの残忍さより、誇らしげに笑っていることが不気味でした。この人は、命の大切さ、哀しさを知らないまま成人してしまったのです。情緒も感性も育ってこなかった、育ててくれる人もいなかったのでしょう。

知的に障がいがあっても、言葉が読めなくても、きれいな色の絵本や可愛い動物の絵本を見て育つことは、とても大事なことです。障がいのある人間として大切な情緒や豊かな感性を育てていきましょう。

埼玉県障害者生活訓練事業

「おにぎりの会ふれあいコンサート」

日時 令和4年12月10日(土)
 会場 秩父市伝承館2Fホール

当日は、生活訓練の一環として、座席を予め配置せずに本人自身で椅子を出して、自分が見やすい場所を探して座ることとしました。ただ、多くの人が戸惑ってしまい、なかなか席に着けず。本人には、少々無理を押し付けてしまった様で、反省点となりましたが、いつも誰かが準備してくれることや、誰かの支援があることを当たり前と考えるのではなく、自立するためには、自分のことを自身で出来ることの喜びも感じてもらいたいと思いました。



コンサートは、久しぶりの生演奏、伝統的な太鼓やピアノの演奏では、感動があり、フラダンスやみんなが知っている曲の演奏では、会場全体で一緒に参加する楽しさを感じてもらえた様子で、企画としては一定の成果があったものと考えます。

久喜市栗橋手をつなぐ育成会
「性教育学習会」

日時 令和5年1月29日(日)
 会場 久喜市栗橋文化会館イリス

男女別々の内容で部屋も別にして実施しました。男性グループのプログラムは、行役から幾つかの性にもつながるテーマ等の題材が出題され、それに対して本人が自由に思いついたままをメモし、それを一人ずつ発表する中で、問題点などを掘り起こして、参加者同士で議論を進める形で、男性として異性に対し、どう有るべき



あとがき

マスク着用が自己判断となります。暑い時期は息苦しくて外出もためらっていた3年間。開放されると安堵しておりますが、周りに対する配慮が必要ということを中心に地域の感染状況を確認しながらの生活をしようと思っております。

《事務局 渡邊》



未来あんしんサポート NEW 2022年1月、「定期支払金付プラン」が新登場 「つかえる楽しみ」と「こせる安心」をお届けします

【知的障がい】や【自閉症】等の障がいのあるお子さまのために「親なきあと」をサポートするご提案です

障がいのあるこの子が お金の管理をできるか心配... この子が経済的に 困らないようにしてあげたい。 自分がまだ元気なうちは、毎年うけとる お金を使ってこの子と一緒に楽しみたい

「生命保険」と「信託」が「親御さまの想い」を 確実に未来へのこします

お問合せや資料のご請求はこちらへ 未来あんしんサポートに関するお問い合わせ ジェイアイシー生命保険信託相談ダイヤル 0120-580-503 通話料 無料 受付時間:月~金(祝日・年末年始を除く)9:00~17:00

「未来あんしんサポート」は、(株)ジェイアイシーが ご提案する生命保険と生命保険信託をあわせた サービスの総称です。

●未来あんしんサポートについて、詳細は「未来あんしんサポート リーフレット」をご覧ください。●株ジェイアイシーは「個人情報保護方針」と題するプライバシーポリシーを策定し、これに基づいて個人情報の取扱いを行っています。その内容は、株ジェイアイシーのホームページにてご確認ください。●当資料は、2022年1月1日時点のお取扱い内容に基づき作成しています。

株式会社ジェイアイシー 本社 〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-11 新宿三井ビル2号館2F ホームページ www.jicgroup.co.jp

【所属信託会社】 みずほ信託銀行株式会社

【生命保険引受保険会社】 第一フロンティア生命保険株式会社

MAS-A-220103

家族支援事業部会主催

「ファッションリーダー」の集い & ノルディックウォーキング講座

令和4年12月13日(火) 市民会館おみや集会室3

ワクチン接種も進み、行動制限もない現状ということで、久しぶりに対面での集いを開催しました。4名の参加で、こじんまりと情報交換等を行いました。

自分の元気の源は?のお題では、推しの話題で大いに盛り上がり、楽しい時間を過ごすことができました。やはり、対面でのコミュニケーションは大切と感じます。参加者の笑顔を見ているのは嬉しいことです。

午後は井村講師の指導の下、ノルディックウォーキング講座が、1年ぶりに開催されました。午前中から降っていた雨がまだ残り、室内で準備運動。歩き方の指導をいただきました。そのうち雨も上がり、大宮の街中を歩きだしました。近代的な街並み。広い歩道を一列で進みます。雨上がりで澄んだ空気に包まれながら、ポールを前について押し出す。意識して歩



くと全身の筋肉をつかっている感覚を感じました。

目的の大宮氷川神社。参道は社殿へと真つすぐに伸び、鳥居をくぐり抜けて、徐々に奥へ。人もまばらで、初詣時に来た時の混雑のイメージが嘘のよう。

厳かな雰囲気をつくり静かに深呼吸して体感しました。途中、おみくじを引いて、お参りもでき、おやつにお団子を皆で食べ、帰ります。整理運動。かたづけ後解散。

参加者のほどよく疲労した表情をうかがいながら、翌日の筋肉痛の報告を楽しみに講座が終了しました。

相談支援事業部会主催

埼玉県知的障害者相談員研修会

障害者相談支援事業とネット情報拡充の中で、「知的障害者相談員」の魅力を見直す。

令和4年12月9日(金) 埼玉会館3C会議室

講師 朝日 雅也 埼玉県立大学 学長補佐兼 高等教育開発センター長

研修会に参加して

吉川市手をつなぐ育成会 酒巻 幸代

朝日先生のユーモアを交えたお話を楽しく拝聴して、参加した皆さんと何人かのグループになり、相談員を経験されている方々の体験談を聞きまして、今後の進んで行く道が見えました。

私の市では、特定相談支援事業所はありますが、一般相談支援事業所がないので新設して頂きたいと思っております。

新年交流会 開催

令和5年1月28日(土) ビストロやま 参加人数 31名

新型コロナウイルス感染症により、様々な制限と過ごした3年間。制限解除にはなりませんが、自主的に感染対策をされてお過ごしになつていただくと存じます。

オンラインから対面での研修会も再開し、新年交流会も開催する運びとなりました。

久しぶりの対面でたくさんの方との情報交換をされていた様子。アルコールも提供され、嬉しそうに談笑する参加者を拝見しまして、長くて暗いトンネルの出口が近いと実感いたしました。皆様、満足されて交流できたこと



いて作成されるもの。別物ではなく連動して初めて成り立つことを再確認せねばなりません。計画を作った人が課題を自立支援協議会にあげること、地域課題が明確になる。計画相談は、本人にとっても地域にとっても重要なポジションであることを、親である私達は、今一度考えるべきと痛感しました。

と思います。令和5年度は西部ブロックにて県大会(川越)が開催されます。より多くの参加者があり、保護者・本人のために有意義な行事となることを望みます。事務局も全力で準備いたします。ご協力をお願いいたします。



身近なところがあれば障害を持つている子供たちの色々な悩み事も気軽に相談できるのではないかと思います。また、2か所の支援事業所の繋がりが分かれれば、とても心強く感じるのではないかと。ただし、それを自分の経験・情報・人と人の繋がりの問題を共有して、様々な出来事に対応していかなければならぬと思えました。今回の研修会のように会を重ねながら勉強していくことが、大事だと実感いたしました。



Advertisement for 'Hand-to-Hand Cancer Insurance' (手をつなぐがん保険) by Zenchi Kyosei Co., Ltd. (ぜんち共済株式会社). The ad lists features like 'Special 1: Agency handling possible', 'Special 2: Notification of illness and relief', and 'Special 3: 'Nanaki' and 'Ato' coverage'. It includes contact information for the company and a QR code.